

教育学部

芸術環境創造プログラム

取得できる学位 ★学士（芸術）

■ プログラムの概要

プログラム構成としては、人間や社会、自然に関する広い視野と基礎的な知識を学ぶ教養教育科目、細分化された芸術ジャンルを超えて芸術が持つ一般的、歴史的、現代のおよび社会的意味や機能についての知識を習得するための一般芸術科目と、各芸術分野の基礎的・基本的な知識・技能を習得するための基盤芸術科目、その発展応用として、社会に通用する専門的知識・技能へと方向づけるための発展応用科目から構成されている。そして、学年の進行と共に重点がこの順序で移動していく。

■ 人材育成目標

芸術環境創造主専攻プログラムでは、地域における芸術活動を推進できる指導者に相応しい人材を養成する。具体的には、芸術に関する幅広い能力を持ち、芸術文化を人間や社会へと普及させるのに必要な知識と実践力を目標とする。

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- 基礎からの発展応用としての各芸術分野固有の専門的知識や思考法を獲得し、それに相応した技能を身に付ける。
- 各芸術分野の基礎的・基本的な知識を身に付け、それに相応した技能を習得する。
- 芸術が持つ一般的、歴史的、現代的、および社会的意味や機能について学び理解する。
- 人間や社会、自然に関する基礎的な知識を学び、広い視野を得る。

| 2 | 当該分野固有の能力

- 各芸術分野の基礎からの発展応用としての専門的知識・理解・技能を、芸術諸活動において活用できる能力を身につける。
- 各芸術分野の基礎的・基本的な知識・理解・技能を、芸術活動において実践的に活用することができる。
- 子どもの心に関する科学的な知識・理解を、芸術教育の場面で実践的に活用することができる。
- 芸術が持つ一般的、歴史的、現代のおよび社会的意味や機能についての知識・理解を活用することができる。
- 人間や社会、自然に関する広い視野と基礎的な知識・理解を活用することができる。

| 3 | 汎用的能力

- 豊かなコミュニケーション能力。
- 円滑・円満な人間関係を構築する能力。
- 共生・協働する能力。
- 確かなプレゼンテーション能力。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 芸術教育に対する使命感や情熱を持っている。
- b) 高い倫理観と規範意識を持っている。
- c) 教育対象者を第一に考え、適切に行動することができる。
- d) 自律的に学び続ける態度、姿勢が身に付いている。
- e) 芸術に携わるものとして、教育対象者に対する理解の重要性や、指導する者が担う責任の重さを体得している。

■ プログラムの履修要件

- ・幅広い分野にわたり、高校卒業レベルの学力を確実に修得している。
- ・芸術専門科目の学習に必要な、高校卒業レベルの基礎学力を有している。
- ・表現の基礎となる実技能力を有している。
- ・通常の間人関係に必要なコミュニケーション能力を備えている。
- ・芸術教育に対し熱意と関心を持っている。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・育成する人材とその到達目標を多角的・総合的に検討し、「(2) 当該分野固有の能力」で示した5本の柱を立てて科目群を設定した。
- ・芸術科目群は、いわゆる「4年一貫の芸術教育」として、各学年にバランスよく設定した。
- ・専門教育科目と教養教育科目のバランスを考慮した。
- ・現実に通用する問題探究能力と課題解決能力を高めるために、地域社会でのアートプロジェクト等の芸術実践を行う「地域芸術実践Ⅰ～Ⅲ」を、積み上げ可能な共通科目として設定した。
- ・卒業研究(卒業論文・卒業制作・卒業演奏等)を必須とし、確固とした専門的力の育成を考慮した。
- ・各科目の履修全体を通して、本プログラムの到達目標達成に必要なとされる知識と実践力を身に付けることができる。